

令和3年9月議会 福祉医療委員会（10月1日）議事要旨

私からは、放課後児童クラブについて伺います。

子どもが保育園から小学校にあがる際、共働き家庭等が直面する社会的な問題は「小一の壁」と言われております。今は幼稚園でも預かり保育があり、就学前は夕方まで子どもを預かってくれるので、共働きの家庭が増えています。

ところが保護者が仕事を続ける上で、手厚いフォローが受けられる保育園・幼稚園時代より、下校時間が早くなる小学校低学年の方が、実は仕事と育児の両立が大変となり、就業継続の大きな支障になっております。

そこで国は、新・放課後総合子どもプランとして、2021年度までに全国で25万人分を整備し、待機児童の解消を図ると共に、2019年度から2023年度の5年間で約30万人分の整備を図ることとされています。

家族や地域社会とのつながりが希薄化する中で、下校後の遊びや生活の場となる「放課後児童クラブ」は、子ども達にとって重要な居場所であると考えております。

問1. 神戸委員

そこで、現在県内には、何か所の放課後児童クラブがあり、何名の子ども達が利用し、待機児童は何名いるのでしょうか。さらに、小学校の授業がない夏休みや冬休み期間中の放課後児童クラブは、どのような対応をしているのかお尋ねします。

答1. 子育て支援課長

はじめに、放課後児童クラブ数ですが、昨年7月1日現在の県内の放課後児童クラブ数は1,195か所であり、この5年間で58カ所増加しております。登録児童数も60,349人と、この5年間で13,780人増加しております。一方、待機児童数は5年前と比べ316人減少し、470人となっております。

次に、学校の長期休暇中の状況でございますが、昨年7月1日現在で、全体の99.2%にあたる1,186クラブが、長期休暇中は午前中から開所することとしており、開所していないクラブに通う児童につきましても、市内の他のクラブを利用できるよう調整するなど、実施主体であります市町村において、子どもたちの居場所の確保に努めております。

問2. 神戸委員

放課後児童クラブは着実に拡大していると伺いました。また、コロナで学校が臨時休校した際にも、放課後児童クラブは、フル回転であったと私の地元から聞いています。国のプランでは、全ての小学校区で、放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体的に又は連携して実施し、うち小学校内で一体型として1万カ所以上で実施することを目指していると伺いました。そこでお尋ねします。このように連携している放課後児童クラブは県内に何カ所あるでしょうか、また一体化を推進するため県としてどのように取り組んでいかれるのかお伺いします。

答2. 子育て支援課長

昨年7月1日現在、同一の小学校内等で放課後児童クラブと放課後子供教室を実施する一体型は187か所、放課後児童クラブと放課後子供教室のどちらか一方が小学校外にある連携型は243か所ございます。

一体型のクラブは、児童が校外に移動することなく放課後を安心・安全に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるため、今後とも、新たに開設する放課後児童クラブについては、学校の余裕教室等を活用した一体型を設置するよう個別ヒアリング等を通じて市町村に働きかけるとともに、引き続き、放課後子供教室を所管する教育委員会とも連携しながら、一体型の拡充に取り組んでまいります。

問3. 神戸委員

幼稚園を卒園された保護者の方々から、「小1の壁」の悩みは多く聞かれますし、特に低学年はすぐに定員がいっぱいになってしまうようで、預けることが難しいようです。このように未だ待機児童がいる現状を踏まえ、更なる放課後児童クラブの充実が必要と思います。今後、待機児童の解消に向け、県としてどのように取り組んでいかれるのか伺います。

答3. 子育て支援課長

待機児童の解消に向けましては、計画的な施設整備とクラブの担い手となる放課後児童支援員の確保が大変重要であると考えております。

施設整備につきましては、市町村の整備が進むよう、今年度も整備計画のある15市町50クラス分の新設や改修への補助に必要な予算を計上しており、引き続き、市町村と連携を図りながら、計画的な整備を進めてまいります。

また、放課後児童支援員の確保につきましては、支援員を目指す方を対

象とした「認定資格研修」を行うとともに、5年以上の実務経験がある支援員を対象に、現場で求められる専門知識・技能を習得するための「キャリアアップ研修」を開催し、今年度は、感染症対策を徹底した上で、認定資格研修は約800名、キャリアアップ研修は約1,300名の受講を予定しております。

こうした事業を着実に実施することで、放課後児童クラブの充実に取り組んでまいります。

要望 神戸委員

児童とその親が抱える様々な問題に対応していく、放課後児童支援員のレベルを上げていくことは必要であると思います。

最期に要望させていただきます。

放課後児童クラブは、今は核家族で、共働き世帯の小学生にとって安心できる居場所であり、保護者にとっても仕事を継続するために必要な場所でもあります。また女性活躍社会や女性就労推進を進めるうえで、重要な役割を担っておりますし、多分、県庁にお勤めの女性の皆さんも「小1の壁」にご苦労されてきたと思います。

私の地元春日井市で、放課後児童クラブで頑張っている方がみえますが、その思いを伺ったところ、「子どもたちが、みんな仲良く、みんなで子育て、みんなで幸せな社会を作りたい」という思いだそうです。社会で一生懸命働いているお父さん・お母さんを「カッコいいな・大好きだな」と思っている子どもたち。でも親たちが仕事で多忙になりすぎると、ネガティブになってしまって、どうしても子どもたちにあたってしまう。子育て世代が抱えるものを少しでもサポートして、親も子どもも気持ちのリセットすることが出来れば、素敵な親子関係を築くことが出来るのではないかと。クラブで頑張っている人たちが言うておりました。そんな学童保育が出来ればと現場で子どもたちに接していらっしゃるし、また学校や先生とのトラブル、親子関係の悩みとか、色々子どもたちの複雑な心の変化まで、そういう事まで配慮しながら頑張っている方が沢山います。

すべての子どもたちのしあわせのために、今後とも、放課後児童クラブの実施主体である市町村としっかりと連携し、放課後児童クラブの更なる充実に取り組まれることを要望して、質問を終わります。